

いきいきダイアリー

名前	小坂 仁 (こさか じん)
住所	
電話番号	
メールアドレス	

近況、嬉しかったこと、私の十八番、おめでたいこと、残念だったこと、・・・何でも

『老人ホームの夢』
“悲しみのウクライナ”
◇命短しこの世の心 平和に波うつ 広瀬川の ^{みなかみ} 水神
◇心にも刻み込まれるウクライナ 破壊された我が家に 夕陽輝く
ホームのベッドの中で、懐かしい思い出の夢を見た。十年前に訪問したウクライナの“コトハ” “キエフ”への旅であった。溪谷の雲間の中の石畳の坂を下り、小さな丘の上の神殿に巡りついた。岩石の山門の奥院の主は、神々しく夕陽に光っていた。
◇ ◇ ◇ ◇
見ることのできない日々の悲しみの現実。生まれ育ててくれたわが祖国。ウクライナを守るためのロシアとの防衛戦。限りなく心が痛む。ウクライナの住市民の哀しみと涙が共にこぼれる。どうしてロシア軍は子ども達を殺すのか。同じ民族ではないのか。本当に恐ろしい戦争だ。この現実の ^{きつりく} 殺戮を、どうして全世界の人たちは、何故停止させないのか。
魂が削られ、哀しい思いをするのは私一人だけではない、と信じている。
やさしいウクライナの人々の心 ^{あたた} を暖めるチャイコフスキーの音楽が聞こえ、トルストイの小説が人々を支えているのではないだろうか。 【次ページへ続く】

やさしいウクライナの人々の心を暖めるチャイコフスキーの音楽が聞こえ、トルストイの小説が人々を支えているのではないだろうか。

ウクライナの詩人、シェフ・チェンコの詩が私の心に沈むのである。

『私のウクライナよ、あなたはなぜ

破壊され、滅ぼされて行くのか』

◇ ◇ ◇ ◇

ウクライナと国境線のあるポーランドへの旅の時、国境線の道を散策したことを思い出した。休憩所内で、ウクライナ人とポーランドの人達とワインを飲み楽しかったことが記憶の奥にある。世界を巡る旅が私の人生を支えている。ヤポンスキー（日本人）の魂をウクライナの人々に伝えたい気持ちがいっぱいなのである。

◇ ◇ ◇ ◇

旅の最終日のことが忘れられない。旅の歴史の不思議。ロシアのゴルバチョフ大統領夫人のライサ夫人に巡り合ったのである。

モスクワ駅のお休み所。細身姿の婦人であった。異国の外人姿の私が珍しいのであろう。ほんの少しの会話であった。

ヤポンスキー（日本）、ふくしまいわきの原発事故はどうなっておりますか？。
(通訳は日本人)

ライサ夫人はウクライナのチェルノブイリ原発事故現場のチェックの帰り道であった。

(私の長女は現在もいわき原発近くに住んでいる。)

共に頑張りましょう・・・と。微笑を残し、指切り握手。さようなら・・・
したことが懐かしいのである。

■ドイツの大統領・ワイゼッカの残した遺言

『過去の真実に目をつむる人は

現実にも目をつむる人になる』